●たがじょうし
多賀城市

高校生が設置した津波到達地点を示す標識

●たがじょうしつなみはこうひょうしき
多賀城市津波波高標識

多賀城高校の生徒が、津波被害を受けた地区を自分たちの足で歩いて波高を調査。震災時に地域をどのくらいの高さの津波が襲ったのか、その痕跡を計測し、住民の方たちから聞き取りを行い、平成25年(2013)8月から電柱などに津波波高標識の設置を始めました。現在までに150個の標識が設置されています。なかには平安時代前期の津波の言い伝えが残る、国指定名勝「名勝おくのほそ道の風景地」にも登録されている歴史遺産「末の松山」の前に設置された標識も。

例年1月に開催される「東日本大震災メモリアルday」では、来校者を対象に生徒が語り部となって津波伝承まち歩き活動を行っています。災害科学科で防災・減災・伝災を学ぶ生徒が、津波波高標識を回りながらJR多賀城駅前の多賀城市 東日本大震災モニュメントまでを案内。彼らの言葉を通して震災を学ぶことができます。

多賀城市の被害状況

注①

最大震度	5強
浸水面積	約6.6㎢
最大浸水高	約4.6m
全壊	1,746棟
半壊	3,730棟
一部損壊	6,166棟
死者	219人
行方不明者	
負傷者	

※被害状況のデータについては、注釈がないものはP.1下段に記載の資料に準拠
※空欄または「不明」としているものは準拠資料の通りに掲載

津波伝承まち歩き活動では、商業施設の駐車場や歴史遺産「末の松山」にも立ち寄る。さまざまなスポットを巡りながら、高校生が自分の言葉で語る震災の教訓・地域の魅力に耳を傾けたい

津波の痕跡の高さを測量器で測定し、その数値のもと付近に立つ電柱にマーキングを実施。設置した津波波高標識のデザインは生徒が行った。津波の記録を残したいと被災地区の自治会長から要望を受けることも

考えてみよう

Q1 震災翌年、市内の建物などに確認できる津波の痕跡は復興作業のなかでの洗浄や壁の塗り替え、自然の風雨などで、日に日に消失していました。しかしある思いをきっかけに生徒たちの調査が始まり、津波波高標識の設置へとつながります。それはどんな思いだったでしょうか?

イベント「東日本大震災メモリアルday」では、生徒が語り部となって来校者を案内(所要1時間30分、🅕無料※要予約)。設置した標識をたどり、最後は多賀城市 東日本大震災モニュメントへ

その他
(波高標識)

語り部あり
※要予約

施設DATA

●たがじょうしつなみはこうひょうしき
多賀城市津波波高標識

☎022-366-1225(宮城県多賀城高等学校) MAP P115C3

🅐多賀城市内
🅧設置場所により異なる
🅗🅚🅕見学自由(東日本大震災メモリアルdayの語り部は無料※要予約)
🅟設置場所により異なる

A1 津波の痕跡という「負の遺産」も、大切な教訓として記録し、後世に残そうという思い。

注①出典:多賀城市における東日本大震災の被害状況概要,平成30年8月1日,多賀城市